

認知症がある方の ありとあらゆる『行動』に 微塵もイラッとしなくなる方法 No.005

【被害妄想】

被害妄想にもいろいろありますが、今回は現場で困りやすい『物盗られ妄想』にしましょう。

「お前がサイフ盗んだんだろ！」「服を返せ！」「眼鏡どこ隠した！」

心やさしいスタッフさんが「私じゃないよ！一緒に探そう。……ほら、ここにあったよ！」と笑顔で対応すると「こんなところに隠して！なんて奴だ！」となります。あわわ、恐ろしや。

①認知

あれ、サイフが無いぞ。

②思考

あいつが盗んだんだ。間違いない！

③行動

「財布を返せこの野郎！」

①認知でサイフが無いことに気づきます。

この時点でどこかに置き忘れていたり、無くしちゃ困るから隠したりしているんですが、もう完全に忘れてます。

「無い！」という事実だけを認知します。

あなたが鞆に入れたはずの財布が忽然と消えていた感じですね。そりゃビックリしますよね。

あなたならどうします？探します？交番いきます？あきらめます？

……物盗られ妄想がある方は、「あいつが盗んだ！」と②思考するんです。

「もしかして、私が落としたのかな？」とは考えません。自分ではなく他人を責めます。

しかも、見ず知らずの他人ではなく、ごくごく身近な家族や職員がターゲットになるので困る。

③行動で「財布を返せこの野郎！」と言われたら最後。

当然無実のあなたは「私じゃない！」と釈明しても『絶対にお前だ！』と現役刑事並の追求。

犯人になったら、わるいことは言いません。素直に受け入れましょう。

大丈夫。あなたが犯人じゃないことは重々承知してますから。

対処法としては、大勢の職員がかかわれる病院や施設なら、

誰かが妄想のターゲットになってくれるうちは、そのままターゲットになってもらいましょう。

その分、他の職員がケアしやすくなります。「あの人が盗ったんだねー」と共感してみたり。

でも、ちゃんとターゲットの職員を労い感謝してあげてください。そうしないと辞めちゃいますよ。

1人が被害者になってくれるおかげで、まわりが救われてるんですから。

「あなたのお陰で助かってるよ 本当にいつもありがとね はい飴ちゃん」って。

1対1にならざるを得ない在宅介護なら、これが一番苦しいですが、かわわりを絶やさないようにしましょう。

犯人扱いされると嫌です。その人が大嫌いになります。もう離れたくなりますが、そうすると余計に悪化します。

物盗られ妄想がある方が「ごく身近な人」を犯人にするのにはちゃんと理由があって、

その人が自分にとってすごく大切な方だから「あいつが盗った！」と妄想するんです。

私は被害者で、あいつは犯人で、私のほうが偉くて、だから私のお世話をして当然で、私にはあいつにお世話をされる権利がある！

そういう非現実的な関係を、物盗られ妄想が現実にしてしてくれてるんです。

このへんのお話は『小澤勲先生の著書／痴呆を生きるということ』をお読みになってください。

ぼくが認知症ケアで最もお世話になり、深く尊敬している先生です。先生いつも力をもらってます。

もし、あなたが物盗られ妄想をはじめとする被害妄想のターゲットになったご経験があれば、それは誇っていいことです。

どうでもいい存在はターゲットにすらなりませんから。

あなたが大切に離れられない存在だからこそ、あまのじゃくな方法ですが、その方はあなたをターゲットに選んだんです。

不器用なんです、被害妄想をする方は。

「あなたを愛してる 私を見捨てないでね」って素直に伝えられれば、お互い楽なんでしょうけどね→No.006に続く